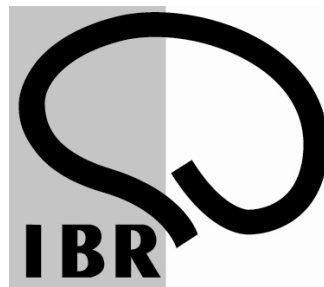


文部科学省科学研究費補助金  
特定領域研究

# 「統合脳」5領域

第5領域  
2005年度～2009年度  
著書リスト





## 貫名 信行

Mitsui, K., Doi, H. & Nukina, N. Proteomics of polyglutamine aggregates. *Methods Enzymol* 412, 63-76 (2006).

## 井原 康夫

井原康夫 (編著) : 脳はどこまでわかったか. 朝日新聞社 東京(2005).

Ihara, Y. Neurofibrillary tangles/paired helical filaments (1981-83). In: *Alzheimer's Disease. A Century of scientific and Clinical Research.* (ed Perry, G., Avila, J., Kinoshita, J. & Smith, M. A.) *J. Alz. Dis.* 9, 209-17 (2006).

Ihara, Y. Ubiquitin is a component of paired helical filaments in Alzheimer's disease. In: *Alzheimer: 100 Years and Beyond.* (ed Jucker, M., Beyreuther, K., Haass, C., Nitsch, R. & Christen, Y.) Springer-Verlag Berlin Heidelberg, 338-43 (2006).

井原康夫, 荒井啓行: アルツハイマー病にならない! 朝日選書 827、朝日新聞社(2007).

## 岩坪 威

Wakabayashi, T., Iwatsubo, T. & De Strooper, B.: The biology of the presenilin complexes. "Alzheimer's Disease", edited by S.S. Sisodia and R.E. Tanzi. VTEX Lithuania, in press.

岩坪威: アルツハイマー病、パーキンソン病、Lewy小体型痴呆症の発症機序. 認知症治療薬開発の最前線 齋藤洋、阿部和穂 (編) シーエムシー出版、109-130(2006).

## 田平 武

田平武: 細胞老化と痴呆. 老年期痴呆の克服をめざして(柳澤信夫監修、財団法人長寿科学振興財団編). 医学書院 東京 10-15 (2005).

田平武, 原英夫: Alzheimer 病の Ab ワクチン療法 神経. (柳澤信夫・篠原幸人・岩田誠・清水輝夫・寺本明編集). 中外医学社 96-102 (2005).

田平武: 自分でできる介護予防 第9章認知症(痴呆症)は生活習慣の改善で予防できます(編集部編). 厚生出版社 東京 156-171 (2005).

原英夫、田平武: アルツハイマー病の Ab ワクチン療法. 脳神経疾患病態の分子生物学. 南山堂 東京 165-174 (2005).

田平武: ワクチン療法の展望 アルツハイマー病. 第19回大学と科学シンポジウム講演収録集 治療の可能性を探る. クバプロ 東京 173-183 (2005).

堀田直恵, 田平武: アルツハイマー病のワクチン療法の試み. 痴呆症のすべて(平井俊策編) 永井書店 大阪 252-260 (2005).

田平武, 曾念生: 監修活化脳細胞特攻食譜. 尖端出版 台湾 (2005).

田平武: 老人性認知症. 泉孝英編集主幹. ガイドライン外来診療 2006 日経メディカル開発 310-314 (2006).

田平武: ワクチン療法. 監修 齋藤 洋、阿部和穂. 認知症治療薬開発の最前線 シーエムシー出版 263-269 (2006).

田平武: 老化に伴う脳神経疾患 監修 吉川敏一. アンチエイジング医学 診断と治療社 80-83 (2006).

田平武: 脳神経系の老化 監修 吉川敏一. アンチエイジング医学 診断と治療社 213-216 (2006).

Tabira, T., Yamamura, T. & Kira, J. Current Topics in Neuroimmunology. Medimond, Bologna, Italy (2007).

Tabira, T., Yamamura, T. & Kira, J. 8th International Congress Neuroimmunology Free Papers. Medimond, Bologna, Italy (2007).

田平武: アルツハイマー・ワクチン. 中央法規出版、東京、(2007).

田平武: アルツハイマー病の神経細胞死を誘導する因子の解析と抑止法の開発. 久野貞子、樋口輝彦編集 財団法人 精神・神経科学振興財団監修 こころの健康科学研究の現状と課題、東京、pp.226-237 (2007).

田平武: 脳いきいき特攻法. 主婦と生活社、東京、(2007).

田平武: 近い将来登場する有望なワクチン療法とは. 認知症アルツハイマー病治療・ケア最前線 主婦の友生活シリーズ 主婦の友社、東京、pp. 14 (2007).

田平武: 認知症を防ぐー免疫反応利用根治療へ期待. 北海道新聞編集 北海道百科、北海道、pp. 8-9 (2007).

田平武: アルツハイマー病に克つ 朝日新書 (2009).

## 水野 美邦

水野美邦: 8. 錐体街路系疾患. 臨床神経内科学、廣瀬源二郎・田代邦雄・葛原茂樹編、南山堂、東京、324-348(2006).

水野美邦: 序文. 新しい診断と治療のABC39 パーキンソン病. 最新医学別冊 水野美邦・編、最新医学社、東京、(2006).

水野美邦: 加速性 Parkinson 病の臨床像と分子遺伝学の整理解説: 総論. 神経内科 65, 103-107(2006).

水野美邦: パーキンソン病遺伝子. Clinical Neuroscience 別冊 中外医学社、東京、(2007).

水野美邦: パーキンソン病遺伝子 Overview. Clinical Neuroscience 25,70-71(2007).

水野美邦: ふるえの診察と検査: 問診と身体診察のポイント. Clinical Neurosci 2007 25,325-329(2007).

Mizuno, Y., Hattori, N. & Mochizuki, H. Genetic Aspects of Parkinson's Disease. In Handbook of Clinical Neurology, (eds) Koller W, Melamed E, Elsevier, Edinburgh, 245-264 (2007).

Mizuno, Y., Ikebe, S., Hattori, N. & Mochizuki, H. HANDBOOK OF CLINICAL NEUROLOGY, 83, PARKINSON'S DISEASE AND RELATED DISORDERS PART 1, Genetic aspects of Parkinson's disease,217-245,Collier W and Melamed E (eds), ELSEVIER (2007).

水野美邦: パーキンソン病の薬. NHK テレビテキスト. きょうの健康 5,134-141(2007).

水野美邦 編著 服部信孝他: EBMのコンセプトを取り入れたパーキンソン病ハンドブック. 改訂2版 中外医学社(2007).

## 柳澤 勝彦

Yanagisawa, K. : Cholesterol and A $\beta$  cascade: pathological implication of apolipoprotein E in Alzheimer's disease. Recent Progress in Alzheimer's and Parkinson's Diseases. (ed Hanin, I., Casabelos, R. & Fisher, A.) Taylor & Francis, London & New York, 133-13

Yanagisawa, K. : Cholesterol and amyloid  $\beta$  fibrillogenesis. Alzheimer's Disease: Cellular and Molecular Aspects of Amyloid  $\beta$ . (ed Robin, H., & Falk, F.) Springer-Verlag, Berlin, Heidelberg, 179-202 (2005).

柳澤勝彦: アルツハイマー病の生物学「脳神経疾患病態の分子生物学」(澤明編)・南山堂 東京 50-59(2005).

柳澤勝彦: 老年期痴呆の克服をめざして: 薬物治療の基本 - 現状と未来 -. 医学書院 東京 157-163(2005).

Yanagisawa, K. Ganglioside and Alzheimer's disease. In: Sphingolipid Biology. (edited by Hirabayashi Y, Igarashi Y and Merrill AH; published by Springer, Tokyo, Japan) 309-317(2006).

Yanagisawa, K. Pivotal roles of cholesterol and gangliosides in aggregation of amyloid beta-protein. In: Research Progress in Alzheimer's Disease (edited by Miao-Kun Sun: published by Nova Science Publishers, Inc.) in press

Yuki, N. & Yanagisawa, K. Glycoconjugates and neurological diseases. In: Comprehensive Glycoscience (edited by Johannis P. Kamerling; published by Elsevier, Oxford, UK), in press.

## 三浦 正幸

三浦正幸: 脳神経疾患とモデル動物: 遺伝子から個体レベルへ. 脳神経疾患病態の分子生物学: 精神疾患と神経疾患の新たな理解のために(澤明編)南山堂、東京 175-184 (2005).

## 西川 徹

Nishikawa, T. Kurumaji, A., Ito, T., Umino, A. & Ishii, S. Neuroanatomical and molecular changes in stress responses. Kato, N., Kawata, M. and Pitman RK (eds.) PTSD brain mechanisms and clinical implications. Tokyo: Springer-Verlag,

西川徹: 6. 神経化学から. 風祭元, 山下格 編. 心の科学セレクション 統合失調症. 東京: 日本評論社 pp.73-90(2005).

西川徹: 1. 統合失調症. 第7章 神経・精神疾患の分子機構. 森寿, 真鍋俊也, 渡辺雅彦, 岡野栄之, 宮川剛編, 脳神経科学イラストレイテッド(改訂第2版). 東京 羊土社 pp.276-283(2006).

濱村貴史, 山本直樹, 黒田安計, 西川徹: 抗精神病薬の作用機序. 精神科薬物療法研究会編. 統合失調症の薬物治療アルゴリズム, 東京 医学書院 pp. 95-122(2006).

谷口豪, 西川徹: 3. グルタミン酸-D-セリンシステムと統合失調症. V. 「グルタミン酸」と「てんかん, 統合失調症」. 鶴紀子編. 脳とこころの科学. 東京 新興医学出版 pp. 114-123(2006).

濱村貴史, 山本直樹, 黒田安計, 西川徹: 抗精神病

薬の作用機序. 統合失調症の薬物治療アルゴリズム 精神科薬物療法研究会編 医学書院 東京、95-122 (2006).

谷口豪, 西川徹: 3. グルタミン酸-D-セリンシステムと統合失調症. V. 「グルタミン酸」と「てんかん, 統合失調症」. 脳とこころの科学 鶴紀子編 新興医学出版 東京、114-123 (2006).

車地暁生, 行実知昭, 熱田英範, 武田充弘, 藤田宗久, 山本真基子, 渋谷治男, 西川徹: 身体表現性障害を経過中に Bipolar II Disorder を呈し, 炭酸リチウム投与によって寛解に至った 1 症例. Bipolar Disorder 4 Bipolar Disorder 研究会編 アルタ出版 東京、25-30 (2006).

Nishikawa, T. A systematic approach to the brain d-serine system. Fujii N, Homma H, Bruecker H, Fisher GH, Konno R (eds.) A New Frontier in Amino Acid and Protein Research. Nova Science Publishers, New York, pp.151-167(2007).

西川徹: 2 ストレスに対する生体の応答, 2.7 発達. ストレスの科学と健康 二木鋭雄編著, 共立出版株式会社, 東京、88-93(2008).

貫名信行, 西川徹: 脳神経疾患研究の成果と課題. 実験医学増刊『脳神経疾患の分子病態と治療への展開』(貫名信行, 西川徹 編集) 羊土社、東京、25, 1914-1922 (2007).

山本直樹, 黒田安計, 西川徹: ドーパミン・興奮性アミノ酸仮説 - 3. 原因と病態モデル - I. 統合失調症の概念 - 統合失調症の治療-臨床と基礎 - 朝倉書店、東京、38-54 (2007).

西川徹: 分子神経科学の視点から. 統合失調症 生物学的背景. 精神医学対話 (ed. by 松下正明, 加藤敏, 神庭重信) 弘文堂 412-435 (2008).

竹内崇, 西川徹: 抑うつ(うつ病). 病期・病態・重症度からみた疾患別看護過程+病態関連図 (ed. by 井上智子, 佐藤千史) 医学書院 1288-1291 (2008).

## 荒井 啓行

荒井啓行: 認知症の周辺症状に対する薬物療法と漢方. 老年医学 Update2007-2008, 日本老年医学会雑誌編集委員会, Medical View 社 (2007).

荒井啓行: 認知症早期診断のための臨床評価法 認知症の予防と治療. (財)長寿科学振興財団(2007).

井原康夫, 荒井啓行: アルツハイマー病にならない. 朝日新聞社 - 朝日選書 827 番 (2007).

## 有賀 寛芳

有賀寛芳: 生物系薬学 II. 生命をミクロに理解する. スタンダード薬学シリーズ4, (日本薬学会編) 東京 化学同人 東京 99-112 (2005).

有賀寛芳: バイオとナノの融合 II, 疾患遺伝子の探索とその作用機序. 北海道大学 COE 研究成果編集委員会編, 103-116 (2007).

有賀寛芳: クラーク 分子生物学, 第22章「組換え DNA 技術」監訳・田沼靖一, 丸善. 647-684 (2007).

有賀寛芳: Brown ゲノム, 第7章「真核生物ゲノム」監訳・村松正美, 小南凌, 201-228 (2007).

有賀寛芳, 有賀早苗: 「ここまでわかったパーキンソン

ン病研究」抗酸化ストレス因子としての Park7/DJ-1 とパーキンソン病 医歯薬出版 (2009).

### 石川 義弘

常松尚志、石川義弘: 心筋細胞内受容体と情報伝達 心臓血管麻酔の進歩. (監修; 武田純三、森田茂) 真興交易(株)医書出版部 61-64(2005).

石川義弘: カベオリンのインシュリンシグナル刺激. 糖尿病学 2005. (編集; 岡芳知, 谷澤幸生) 診断と治療社 44-51 (2005).

### 岩田 修永

岩田修永、西道隆臣: アルツハイマー病の発症機序へネプリライシン. 認知症治療薬開発の最前線シーエムシー出版, 東京、131-140 (2006).

Iwata, N., Higuchi, M. & Saido, T.C. Abeta-degrading enzyme, neprilysin, In: Research Progress in Alzheimer's Disease and Dementia, Vol. 1. (ed. Sun, M.K.) Nova Science Publishers, New York, pp. 111-145 (2007).

岩田修永、齊藤貴志、西道隆臣: ネプリライシン活性増強剤. アルツハイマー病-基礎研究から予防・治療の新しいパラダイム、(編集、平井俊策)日本臨牀社、東京、pp. 502-506(2007).

浅井将、西道隆臣、丸山敬、岩田修永:  $\beta$ -セクレターゼ阻害剤(KMI-429). アルツハイマー病-基礎研究から予防・治療の新しいパラダイム、(編集、平井俊策)日本臨牀社、東京、pp. 488-492(2007).

岩田修永: I. 2 章 脳と精神の老化、認知症の基礎 3-2 神経化学. 認知症テキストブック 中外医学社 39-41 (2008).

岩田修永: 実験薬理学シリーズ: 実践行動薬理学「アルツハイマー病の病態解明に向けたモデルマウスの解析」 (ed. by 日本薬理学会) 金芳堂 175-182 (2010).

### 菅 敏幸

菅敏幸、福山透: 「保護基」. 化学系薬学 II A 第4章 日本薬学会編 (2005).

菅敏幸、福山透: 薬学研究ビジョン「これからの天然物の合成と創薬」. Pharma VISION NEWS No.6.(2005).

菅敏幸、福山透: 寄稿論文「含窒素化合物の確実かつ簡便な合成法: Ns-strategy と高活性トリチル型レジン」. TCI メール No.128(2005).

### 木下 彩栄

木下彩栄: 神経変性疾患のサイエンス (共著). 神経組織学の新しい手法、南山堂 141-147(2007).

### 白澤 卓二

Shimizu, T. & Shirasawa, T. Detection of Amyloid  $\beta$  peptide with L-isoleucine in Alzheimer's disease. In D-Amino Acid: A new frontier in amino acid and protein research -Practical Methods and Protocols-, Editors: R. Konno, H. Bru(uuml)ckner, A. D'Aniello, G. Fisher, N. Fujii, & H. Homma, Publisher: Nova Science Publishers, Hauppauge, New York, U.S.A. 368-374 (2006).

### 鈴木 利治

荒木陽一、鈴木利治: タンパク質分解異常と疾患—神経変性疾患を中心に— タンパク質科学イラストレイテッド第6章 (竹縄忠臣 編) 羊土社 東京 286-294 (2005).

### 高橋 良輔

Suzuki, Y. & Takahashi, R. A mitochondrial serine protease regulating cellular life and death, In Apoptosis and cancer therapy, eds. Debatin, K.-M. and Fulda, S. Wiley-VCH, Weinheim, Germany, 222-232 (2006).

高橋良輔、王華芹、小林芳人: プログラム細胞死と神経変性疾患. 細胞死・アポトーシス集中マスター (辻本賀英) 羊土社 100-110 (2006).

Takahashi, R. The molecular pathway to neurodegeneration in parkin-related parkinsonism. In Protein Degradation, eds. Mayer, R.J., Ciechanover, A.J. and Rechsteiner, M. Wiley-VCH, Weinheim, pp195-210. (2007).

高橋良輔 (編集): 神経変性疾患のサイエンス. 南山堂 (2007).

Inoue H., Kondo T., Lin L., Mi S., Isacson O. & Takahashi R.: Protein Misfolding and Axonal Protection in Neurodegenerative Disease protein Folding and Misfolding: Neurodegenerative Disease (ed. by Ovadi J) Springer in press.

### 玉岡 晃

Koide, R. & Tamaoka, A.: Body image deviation in chronic schizophrenia: new research. In Body Image: New Research, ed by Marlene V. Kinds, NovaScience Publishers, Inc., N.Y., 145-197(2006).

玉岡晃: 認知症に対する治療はどうすべきか. EBM 神経疾患の治療 2007-2008 (水澤英洋、棚橋紀夫、岡本幸市 編)、228-235(2007).

玉岡晃: アルツハイマー病、臨床病態学 (北村 聖 編)、ヌーヴェルヒロカワ、112-118(2006).

玉岡晃: アポEと Alzheimer 病—アポEの分子病態と疾患発症機構. 別冊・医学のあゆみ Alzheimer 病—基礎・臨床研究の最新動向 (岩坪 威編集)、医歯薬出版株式会社、pp93-100(2007).

玉岡晃: 認知症に対する治療はどうすべきか. EBM 神経疾患の治療 2007-2008 (水澤英洋、棚橋紀夫、岡本幸市 編)、中外医学社、pp228-235(2007).

玉岡晃: Kennedy-Alter-Sung 症候群. 整形外科診療実践ガイド (守屋秀繁・他編)、文光堂、454-455(2006).

玉岡晃: 脳脊髄への転移. 癌緩和ケア—必携 ベッドサイドで役立つ癌緩和ケアマニュアル、東原正明編著、pp58-60(2008).

織田彰子、玉岡晃: 筋けいれん痛、癌緩和ケア—必携 ベッドサイドで役立つ癌緩和ケアマニュアル、東原正明編著、pp61-62(2008).

織田彰子、玉岡晃: 神経障害性疼痛、癌緩和ケア—必携 ベッドサイドで役立つ癌緩和ケアマニュアル、東原正明編著、pp63-64(2008).

玉岡晃: 検体検査 (血液検査、髄液検査)、新体系看護学全書 19 成人看護学⑥脳・神経、黒岩義之・宗

村美江子編集、メヂカルフレンド社、pp81-86(2008).  
玉岡晃：一般内科疾患に伴う神経・筋障害. 新体系看護学全書 19 成人看護学⑥脳・神経、黒岩義之・宗村美江子編集、メヂカルフレンド社、pp220-226(2008).

玉岡晃：神経系の先天奇形・形成障害. 新体系看護学全書 19 成人看護学⑥脳・神経、黒岩義之・宗村美江子編集、メヂカルフレンド社、pp226-228(2008).

#### 西村 正樹

Hasegawa, H. & Nishimura, M.  $\gamma$ -Secretase complex: core components and modulators. "Recent Advances in the Biology of Secretases, Key Proteases in Alzheimer Disease", ed. by Araki W. Research Signpost, in press.

#### 橋本 康弘

山地俊之、三ツ木元章、橋本康弘：Natural killer (NK) 細胞の活性化レセプターと抑制性レセプター. 糖鎖科学の新展開(伊藤幸成、谷口直之監修) (株) エヌ・ティー・エス、東京 274-280 (2005).

北爪しのぶ、橋本康弘：アルツハイマー病  $\beta$  セクレターゼによる糖転移酵素のプロセッシング. 未来を拓く糖鎖科学 (永井克孝監修) 金芳堂 京都 250-252(2005).

Kitazume S., Takashima S. & Hashimoto Y.: Experimental Glycoscience—Glycobiology (ed. by N. Taniguchi et al) シュプリンガー・ジャパン 192-194 (2008).

橋本康弘、北爪しのぶ：糖鎖を知る—その素顔と病気への挑戦— in press in press.

#### 樋口 真人

Iwata, N., Higuchi, M. & Saïdo, T.C.  $\text{A}\beta$ -degrading enzyme, neprilysin. In: Research Progress in Alzheimer's Disease and Dementia, Vol. 1 (ed. Sun MK). Nova Science Publishers, New York pp. 111-145 (2007).

樋口真人：アミロイドイメージング：MRI. 日本臨床 66 巻増刊号 アルツハイマー病—基礎研究から予防・治療の新しいパラダイム— pp293-299 (2008).

#### 久永 眞市

Hisanaga, S. & Sasaki, T. Neurofilament assembly. In "Cell Biology Protocol", Harris, R., Graham, J. & Rickwood, D. eds. pp337-41 (2006).

Ueda, K. & Hisanaga, S. Alpha-synuclein fibril formation induced by tubulin. In "Cell Biology Protocol", Harris, R., Graham, J. & Rickwood, D. eds, pp342-44 (2006).

Hisanaga, S. & Ishiguro, K. The kinase activity of Cdk5 and its regulation. In "Cdk5". Eds. Ip, N. & Tsai, L-H. Springer, NY. in press.

#### 松崎 勝巳

松崎勝巳：ガングリオシドクラスターを介したアルツハイマー  $\beta$  - アミロイドタンパク質の凝集. 未来を拓く糖質科学 (永井克孝監修) . 金芳堂 京都 244-246 (2005).

松崎勝巳：ペプチドとリポソームの相互作用. リポソーム応用の新展開 ~人工細胞の開発に向けて~

(秋吉一成・辻井薫監修). エヌ・ティー・エス 東京 167-175 (2005).

#### 道川 誠

道川誠：アポリポ蛋白 E. 老年期認知症ナビゲーター, メヂカルレビュー社、226-227(2006).

#### 村山 繁雄

村山繁雄：アルツハイマー病診断. 真興交易、東京、(2006).

村山繁雄、齊藤祐子：PDD (認知症を伴うパーキンソン病) と DLB (レヴィー小体型認知症) の臨床と病理. Annual Review 神経病理 2007、中外医学社、東京、167-174(2007).

#### 山口 芳樹

Yamaguchi, Y., Takahashi, N. & Kato, K. Molecular interactions: Antibody structures. Comprehensive Glycoscience, (J.P.Kamerling ed.), Elsevier(Oxford), vol.3, pp745-763 (2007).

#### 岡澤 均

Okazawa, H. : Glutamine/asparagine-rich regions in proteins and polyglutamine diseases. "Protein Misfolding Aggregation and Conformational Diseases" edited by Vladimir N. Uversky Kluwer Academic/Plenum.6,451-463 (2006).

Okazawa, H. : Pathomechanisms and Therapeutic Approaches of Polyglutamine Diseases. Handbook of Neurochemistry edited by Abel Lajtha Kluwer Academic/Plenum (2006).

Okazawa, H. "POLYGLUTAMINE DISEASES" in Handbook of Neurochemistry and Molecular Neurobiology: Neural Protein Metabolism and Function, Edited by A Lajtha, Springer (2007). (ISBN 9780387303468)

#### 郭 伸

郭伸：筋萎縮性側索硬化症.今日の治療指針 2005 年版 (総編集：山口徹、北原光夫). 医学書院 東京 652-3 (2005).

日出山拓人、郭伸：筋萎縮性側索硬化症.内科疾患診療マニュアル (富野康日己編). 中外医学社 東京 1012-7 (2005).

日出山拓人、郭伸：Huntington 病.内科疾患診療マニュアル (富野康日己編). 中外医学社 東京 1036-8 (2005).

相馬りか、郭伸、山本義春：人の中の確率共振と治療への応用.複雑現象工学-複雑系パラダイムの工学応用 (独立行政法人産業技術総合研究所). プレアデイス出版 大阪 321-32 (2005).

日出山拓人、郭伸：髄液細胞数・蛋白・糖. 検査値のみかた改訂3版. 編集代表中井利昭. 中外医学社. 790-6 (2006).

山下雄也、郭伸：グルタミン酸受容体と神経細胞死. 神経変性疾患のサイエンス、南山堂、in press.

Kwak, S., Hideyama, T. & Yamashita, T.: AMPA receptor-mediated neuronal death in motor neuron diseases. In: Amino Acid Receptor Research, Ed: Paley

BF & Warfield TE, Nova Science Publishers Inc. NY., in press.

日出山拓人、郭伸：筋萎縮性側索硬化症の AMPA 受容体仮説. Annual Review2008 神経 212-221(2008).

山下雄也、郭伸：神経細胞死とグルタミン酸受容体神経変性疾患のサイエンス. 高橋良輔編、南山堂、91-102(2007).

Kwak S., Hideyama T. & Yamashita T.: Amino Acid Receptor Research Nova Science Publishers Inc (2008).

日出山拓人、郭伸：Annual Review2008 神経 中外医学社 (2008).

郭伸：今日の診断指針第 6 版 医学書院 in press.

## 佐野 輝

佐野輝: chorea acanthocytosis ;内科学 第九版(杉本恒明、矢崎義雄総編集)朝倉書店、1794-1796、(2007).

Nakamura, M., Katoh, Y., Kurano, Y., Ichiba, M., Matsuda, M., Katoh, M., Ueno, S. & Sano, A. A Mouse Model of Chorea-Acanthocytosis, Neuroacanthocytosis Syndromes II (R. Walker eds.), Part III, 153-159, Springer, Berlin, Germany, (2008).

Sano, A.: Psychiatric Morbidity in Neuroacanthocytosis. Neuroacanthocytosis Syndromes II (R. Walker eds.), Part V, 157-163, Springer, Berlin, Germany, (2008).

## 塩見 美喜子

Nelson, D. & Siomi, M.C. :Fragile X Syndrome. Pediatric Nutrition in Chronic Diseases and Developmental Disorders -Prevention, Assessment, and Treatment- 2nd Edition (ed., Shirley Walberg Ekvall and Valli K. Ekvall) Chapter 56,Oxford University Press New York (2005).

Siomi, M.C. & Siomi, H. :Identification of components of RNAi pathways using the Tandem Affinity Purification (TAP) method. Methods in Molecular Biology vol. 309: RNA Silencing, pp1-9. (ed., Carmichael, Gordon) (2005). (ID#15990393)

Taura, T., Siomi, M.C. & Siomi, H. The molecular mechanisms of mRNA export. Nuclear Import and Export in Plants and Animals (ed., Tzfira, T and Citovsky, V.), 161-174. Landes Bioscience, New York (2005).

Ishizuka, A., Saito, K., Siomi, M.C. & Siomi, H.: In vitro precursor microRNA processing assays using Drosophila Schneider-2 cell lysate. Methods in Molecular Biology, vol. 342: MicroRNA Protocols 277-286 (2006). (ID#16957382)

## 清水 重臣

清水重臣：細胞死「癌のベーシックサイエンス」メディカルサイエンスインターナショナル. 221-234(2006).

清水重臣：細胞死の分子機構. からだと酸素の事典朝倉書店 in press.

清水重臣：神経変性疾患とミトコンドリア傷害. 神経変性疾患のサイエンス 南山堂 (2007).

## 永井 義隆

戸田達史、永井義隆：III. 研究の現状、1. 原因と発症の仕組み. パーキンソン病と関連疾患の療養の手引き(葛原茂樹編). 三重大学出版 三重 70-72

(2005).

永井義隆：遺伝子治療の展望. 脊髄小脳変性症のすべて(水澤英洋監修). 日本プランニングセンター 千葉 112-115 (2006).

永井義隆： $\chi$ . 神経変性疾患への臨床応用 18. 神経変性疾患治療戦略としての低分子による蛋白質凝集阻害. 神経変性疾患のサイエンス(高橋良輔編、南山堂) in press.

永井義隆：IV 神経変性疾患への臨床応用 18. 神経変性疾患治療戦略としての低分子による蛋白質凝集阻害. 神経変性疾患のサイエンス(高橋良輔編、南山堂)、181-197 (2007).

## 西澤 正豊

西澤正豊：神経疾患. 老年医学(松本和則・嶋田裕之編). 中外医学社 東京 66-77(2005).

西澤正豊：、五十嵐修一：ポリグルタミン病の分子生物学. 脳神経疾患 病態の分子生物学(澤明編). 南山堂 東京 28-38 (2005).

西澤正豊：脊髄小脳変性症の概論 研究と情報. 脊髄小脳変性症のすべて. 日本プランニングセンター 東京 19-22 (2006).

西澤正豊：神経難病と災害対策. 阿部康二編著「神経難病のすべて」、新興医学出版、東京、221-224 (2007).

西澤正豊：大脳皮質基底核変性症、進行性核上性麻痺に有効な薬剤はあるか. 岡本幸市、棚橋紀夫、水澤英洋編「EBM 神経疾患の治療 2007-2008」、中外医学社、東京、220-222 (2007).

西澤正豊：スギヒラタケ脳症. 柳澤信夫、篠原幸人、岩田誠、清水輝夫、寺本明編「Annual Review 神経 2007」、中外医学社、東京、194-198 (2007).

## 西頭 英起

門脇寿枝、西頭英起：アポトーシス. 蛋白質 核酸 酵素 増刊号 キーワード：蛋白質の一生 in press.

## 長谷川 成人

長谷川成人：タウ:老年期認知症ナビゲーター(平井俊策監修) 東京：メディカルレビュー社、218-219 (2006).

長谷川成人：神経原線維変化:老年期認知症ナビゲーター(平井俊策監修) 東京：メディカルレビュー社、214-215(2006).

長谷川成人、新井哲明：タウ、プログラニューリン、TDP-43 と神経変性. 実験医学 25, 53-61 (2007).

長谷川成人、新井哲明：ALS でみられるユビキチン化封入体の構成蛋白. Brain Nerve 59, 1171-1177 (2007).

新井哲明、秋山治彦、長谷川成人：FTLD および ALS に出現するユビキチン陽性封入体の主要構成成分としての TDP-43 の同定. Dementia Japan 21, 89-103 (2007).

新井哲明、長谷川成人：ピック病の分子生物学. 老年精神医学雑誌 18, 605-615 (2007).

野中隆、増田雅美、長谷川成人：シヌクレイノパチーの基礎研究における最近の進歩. Dementia Japan

21(1), 8-14 (2007).

筈川貴行、長谷川成人: タウとアルツハイマー病. 医学のあゆみ 220, 374-378 (2007).

野中隆、増田雅美、長谷川成人:  $\alpha$ -シヌクレイン. 日本臨床 66 [増刊号 1], 102-106 (2007).

長谷川成人、新井哲明: TDP-43 と神経変性疾患. BIO Clinica. 23, 61-64 (2007).

新井哲明、長谷川成人: TDP-43 (TAR DNA-binding protein of 43 kDa) とその意義. Clin. Neurosci. 26, 301-302 (2008).

### 畠山 鎮次

畠山鎮次: II. 神経変性の分子細胞生物学. 4. ユビキチン・プロテアソームシステム. (高橋良輔編: The Frontiers in Medical Sciences 「神経変性疾患のサイエンス」、南山堂、東京) in press.

畠山鎮次: myc 遺伝子. 村松正實編: 分子細胞生物学事典 第2版、東京化学同人、東京 (2008).

### 秦野 伸二

秦野伸二: 110. 筋萎縮性側索硬化症原因遺伝子. 予防医学事典 (松島綱治、酒井敏行、石川昌、稲寺秀邦編). 朝倉書店 東京 251-253 (2005).

### 松沢 厚

三輪崇志、松沢厚、一條秀憲: アポトーシス. 酸化ストレスナビゲーター (倉林正彦監修、山岸昌一編). メディカルビュー社 東京 112-113 (2005).

### 水島 昇

Mizushima, N. Transgenic models of autophagy. In Autophagy in Immunity and Infection, edited by Vojo Deretic. Wiley-VCH. 55-67 (2006).

原太一、水島昇: 神経変性疾患におけるオートファジーの役割. 神経変性疾患のサイエンス、高橋良輔編 南山堂 pp49-57 (2007).

### 池田 和隆

曾良一郎、渡邊秀和、井手聡一郎、池田和隆: モルヒネの効き、副作用のかたは個人で異なるか? 患者の疑問に答えるオピオイドの要点 (下山直人編著) 真興交易 東京 53-62 (2005).

### 糸川 昌成

糸川昌成: 糸川昌成 日本評論社 (2008).

### 大森 哲郎

住谷さつき、原田雅史、久保均、大森哲郎: 薬物応答性の異なる OCD の ProtonMRS を用いた検討. 強迫性障害の研究 6, 47-52 (2005).

安藝浩史、友竹正人、兼田康宏、伊賀淳一、木内佐和子、田吉純子、田吉伸哉、森口和彦、元木郁代、住谷さつき、山内健、谷口隆英、石元康仁、上野修一、大森哲郎: 統合失調症患者の主観的及び客観的 QOL と家族による生活能力評価との関連の検討. 精神薬療 研究年報 第37集 169-176 (2005).

### 尾崎 紀夫

尾崎紀夫: 伝統的診断分類と操作的診断分類について: 精神疾患の分類と病因の関係. 精神科研修ハンドブック. 羊土社 東京 70-72 (2005).

尾崎紀夫: プライマリケア医と精神科医の連携. 第129回日本医学会シンポジウム「うつ病」. 東京 61-65 (2005).

木村宏之、尾崎紀夫: リエゾン精神医学. 精神科研修ハンドブック. 羊土社 東京 (2005).

西岡和郎、尾崎紀夫: うつ病. 精神科研修医ハンドブック. エルゼビア・ジャパン 東京 (2005).

西岡和郎、尾崎紀夫: プライマリケアでみる精神疾患とその対応. 精神科研修ハンドブック. 羊土社 東京 (2005).

野畑綾子、尾崎紀夫: サイコエデュケーション (心理教育). 心理療法ハンドブック (成田善弘ら). 創元社 東京 (2005).

村瀬聡美、尾崎紀夫: 妊娠・出産期の精神科薬物療法. 精神疾患の薬物療法ガイド (稲田俊也編). 星和書店 東京 163-175 (2007).

三浦英樹、尾崎紀夫: 1. セロトニントランスポーターの機能異常と阻害効果. SSRI のすべて 先端医学社 40-44 (2007).

### 笠井 清登

細川大雅、笠井清登: 統合失調症の成因仮説を踏まえた新しいアプローチ. In: 精神科臨床ニューアプローチ 4 統合失調症と類縁疾患 メジカルビュー社 東京 2-15 (2005).

管心、山末英典、笠井清登: 器質性変化は臨床症状や社会的予後と関連するか? In: EBM 精神疾患の治療 2006-2007, 各論 I 統合失調症 中外医学社 東京 28-33 (2006).

山末英典、管心、笠井清登: どこまで脳器質性障害と言えるか? In: EBM 精神疾患の治療 2006-2007, 各論 I 統合失調症 中外医学社 東京 22-27 (2006).

平安良雄、笠井清登: 平安良雄、笠井清登 南山堂 (2008).

井上秀之、山末英典、笠井清登: 井上秀之、山末英典、笠井清登 中山書店 (2008).

滝沢龍、川久保友紀、桑原斉、笠井清登: 精神疾患と NIRS 中山書店 92-102 (2009).

西村幸香、滝沢龍、笠井清登: 精神疾患と NIRS 中山書店 79-89 (2009).

切原賢治、荒木剛、笠井清登: 精神疾患と認知機能 新興医学出版社 89-95 (2009).

滝沢龍、笠井清登、福田正人: 専門医のための精神科臨床リュミエール 中山書店 in press.

### 兼子 直

Okada, M., Zhu, G., Yoshida, S., Hirose, S. & Kaneko, S. Chapter 6: mechanisms of calcium-associated exocytosis of striatal dopamine and DOPA release, studied by in vivo microdialysis. In: Neurobiology of DOPA as a Neurotransmitter (ed Misu, Y. & Goshima, Y.) Taylor & Francis, New York. 89-99 (2005).

兼子直: てんかんの分子病態. 脳を知る・創る・守



る・育む（「脳の世紀」推進会議（伊藤正男、晝馬輝夫、河西春郎、山口陽子、兼子直、酒井邦嘉）編）。（株）クバプロ 東京 100-29 (2005).

兼子直：不眠を訴える患者への薬の出し方。睡眠障害診療のコツと落とし穴（上島国利編）。（株）中山書店 東京 38-9 (2006).

兼子直：Heinz N. 改訂版 パルプロ酸の臨床薬理より良い使い方を求めて。2006.9.26 改訂版第1刷発行、総頁183、株ライフ・サイエンス、東京 (2006).

兼子直：うつ病。市民のための老年病学—健やかな老後をあなたに— 51-53(2007).

和田一丸、兼子直：てんかん。コア・ローテーション精神科（改訂2版）224-230(2007).

兼子直：チャネロパチー。KEY WORD 精神（第4版）123(2007).

森園修一郎、菊池淳宏、近藤毅、兼子直：急性期における身体管理。佐藤光源、丹羽真一、井上新平編：統合失調症の治療—臨床と基礎— 376-382(2007).

#### 久保田 健夫

久保田健夫：98.ゲノムインプリンティング。予防医学辞典 E. 遺伝子解析，診断，治療（松島綱治編）、朝倉書店(東京) 211-213 (2005).

#### 曾良 一郎

曾良一郎：こころの病と脳内神経伝達物質。In: こころの病・脳の病：9-27 NPO 法人脳の世紀推進会議編、東京、(2006).

曾良一郎：オピオイド受容体 Opioid receptor. In: KEY WORD 精神,第4版,（樋口輝彦, 神庭重信, 染矢俊幸, 宮岡等編）150-151、先端医学社、東京 (2007).

#### 朝長 啓造

Schwemmler, M., Carbone, K. M., Tomonaga, K., Garten, W. & Nowotny, N. Bornaviridae. In C. M. Fauquet et al. (ed.), Virus Taxonomy. Eighth report of the international committee on taxonomy of viruses. Academic Press, San Diego. 615-622. (2005).

朝長啓造：ポルナウイルス感染症。獣医学臨床シリーズ No.21, 犬, 猫および愛玩小動物のウイルス病。

（望月雅美編）学窓社 231-237 (2005).

朝長啓造：ポルナウイルス科。獣医感染症カラーアトラス 第2版, 文永堂出版(2006).

#### 橋本 亮太

橋本亮太、高橋清久：精神疾患と性差。性差医療、天野恵子編 112-123 (2005).

武田雅俊、田中稔久、橋本亮太：精神と未病。未病医学入門臨床、金芳堂、98-102(2006).

橋本亮太、武田雅俊：リチウムの神経保護作用。キーワード精神第4版、230-231 (2007).

橋本亮太、武田雅俊：DTNBP1。キーワード精神第4版、200-201 (2007).

#### 福島 順子

福島順子：第15章 運動機能。II. 運動制御のしくみ。二宮石雄他編集「スタンダード生理学」(2006).

福島順子、福島菊郎：第エッセンシャル神経科学(訳書) (ed. by 前田正信) 丸善株式会社 (2008).

福島順子：第16章 感覚系、運動系と統合系(訳書)。トータル人体の構造と機能第3版 丸善 in press.

#### 松本 直通

Kurotaki, N. & Matsumoto, N. Sotos syndrome. Genomic disorders: The genomic basis of disease: Edited by Lupski JR and Stankiewicz PT. The Humana Press Inc, Totowa, NJ, USA, 237-246(2006).

#### 宮川 剛

宮川剛、高雄啓三：遺伝子と行動。「改訂第2版 脳神経科学イラストレイテッド」、森寿、真鍋俊也、渡辺雅彦、岡野栄之、宮川剛編。羊土社、267-274 (2006).

宮川剛：「遺伝子、脳、こころ—マウスの研究からわかったこと」2005 世界脳週間の講演より。子供の脳から大人の脳へ 107-139 (2007).

高雄啓三、宮川剛：ストレスの科学と健康。共立出版、第5章 第4節 実験動物 (2008).